

# いじめ発生における加害者の環境的要因 及び心理的要因についての実証的研究

Positive study about the environment-like factor and psychological factor of a bullying assailant

大嶋 千尋<sup>1</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学大学院人間文化研究科臨床心理学専攻

Chihiro Oshima<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Studies in Clinical Psychology, Graduate School of Studies in Human Culture, Otsuma Women's University  
2-7-1 karakida, Tama-shi, Tokyo, Japan 206-8540

キーワード：いじめ加害者，家庭環境，他者評価

Key words : Bullying assailant, Family background, Evaluation of others

## 抄録

「いじめの4類型」（公の場でのいじめ，物理的ないじめ，関係を利用したいじめ，陰でのいじめ）をもとに，いじめ加害者の特徴についての実証的研究を試みた。その結果，「公の場でのいじめ」を行ういじめ加害者は，親の養育態度の偏りがみられない家庭で育ち，問題行動を起こしがちで，生徒たちからも距離を取られてしまうような生徒ということがわかった。「陰でのいじめ」を行ういじめ加害者は，子どもに対して親からの関心が高いか低いかの二極性があり，周囲からの評価が低くて問題行動を起こすような子も，友人が多くて人気者で弱い子を助けるような良い子も存在することが明らかになった。「関係を利用したいじめ」を行ういじめ加害者の特徴は，大人の目に映るいじめ加害者の認識は様々だが，生徒からは近寄り難く，距離を置きたがるような認識であったことが分かった。本研究では，いじめ加害経験者に調査できず，心理的要因は検証できなかった。

## 1. 問題と目的

日本におけるいじめの研究の歴史は，いじめの被害による児童生徒の自殺が社会問題となった1980年代から始まった。当初は，いじめ被害者やいじめ加害者の特徴について研究されていたが，次第に，集団としていじめを捉えた研究や，いじめの実態調査がなされるようになり，研究の視点は拡大していった。

大嶋（2009）は，大学生を対象に，中学生当時見聞きしたいじめ加害者について想起してもらうアンケート調査及びメール調査を実施した。その結果，露見性が高いいじめを行ういじめ加害者は問題児傾向が強いこと，匿名性が高いいじめを行ういじめ加害者は優等生傾向が強いことが分かった。このデータをもとに，大嶋（2013）は，三島（1997）のいじめにおける攻撃行動の「直接性－間接性」の視点に，いじめが行われる場面の「露見性－匿名性」の視点を加えた2軸により，いじめを4種類に分類し，「いじめの4類型」として図1を作成した。問題児タイプで露見性が高

く，直接的な攻撃行動を行う「公の場でのいじめ」，問題児タイプで露見性が高く，間接的な攻撃行動が特徴的な「物理的ないじめ」，優等生タイプで匿名性が高く，間接的な攻撃行動が特徴的な「関係を利用したいじめ」，優等生タイプで匿名性が高く，直接的な攻撃行動を行う「陰でのいじめ」とした。

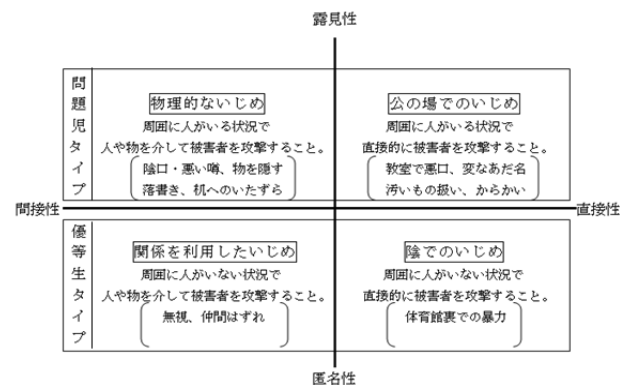


図1. いじめの4類型

本研究では，大嶋（2013）の「いじめの4類型」をもとに，学校や家庭での様子からそれぞれのい

じめ加害者の特徴を明らかにすることを目的とする。

## 2. 方法

調査対象者：中学教師 1 名（縁故法で選出）  
 質問内容と質問方法：予め「いじめの 4 類型」より、それぞれ典型的ないじめの具体例を提示し、そのいじめを行っていた生徒を想起してもらい、以下の質問に回答してもらう。

①個人的要因の明確化（いじめ加害者が周囲からどのような他者評価をされていたかを明らかにするために、親以外の身近な大人である先生と、

思春期に最も影響を受けやすいという同世代の生徒たち、二側面からいじめ加害者についての印象や評価を尋ねる質問）

②環境的要因の明確化（一人の中学生がいじめ加害者になってしまう環境的要因として、いじめ加害者の家庭の様子について、家族構成や親子関係を尋ねる質問）

## 3. 結果と考察

いじめ加害者の性別を問わず、8 つの事例が挙げられた。いじめの 4 類型と質問項目をもとに、いじめ加害者の特徴を表 1 にまとめた。

表 1. いじめの 4 類型といじめ加害者の特徴

いじめ加害者のタイプ	問題見タイプ		優等生タイプ							
	直接的な攻撃行動		間接的な攻撃行動		直接的な攻撃行動		間接的な攻撃行動			
いじめの 4 類型	公の場でのいじめ		物理的ないじめ		陰でのいじめ		関係を利用したいじめ			
事例	生徒A	生徒B	想起時、該当者なし		生徒C	生徒D	生徒E	生徒F	生徒G	生徒H
先生からの印象・評価	問題行動が多い子	内向的、何を考えているかわからない生徒、校則違反			小学校からの申し送り、問題を起こしている子	弱い子を助ける、いい子性格も良く、ハキハキとして、ユーモアのある子	目立たず、ただ居ると感じる子	落ち着いた子授業中にわがままな態度で臨む、取り組む子	めんどくさい奴	勉強もスポーツもできる、顔もいい子
生徒からの印象・評価	煙たがれる様な生徒	人気者という子ではなかった			学業不振運動神経が高いわけでもなく	友達が多くて、授業中も楽しいことを言う子	同性には嫌がられていた、異性と話すこともなさそうな感じ	体臭のため好印象ではなかった	口が悪いため良く思われてなかった	逆らえない感じ
家庭の様子	父子家庭祖父母同居、父は夜不在がち母には時折会う	家庭的に問題はない			父子家庭、祖母同居	学校にも協力的すぎる位のしっかりした両親かなりの愛情を込めていた	不明	一夫多妻子どもに対しては筋を通させようとする	不明	問題のない家庭

「公の場でのいじめ」では、生徒 A, B の 2 つの事例が得られ、いじめ加害者の共通した特徴がみられた。先生からの評価は生徒 A, B 共に校則違反などの問題行動をする子であり、生徒からの評価は良い印象を抱かれない子であったことが分かった。また、家庭環境については、生徒 A の家庭は父子家庭だが、生徒 B の家庭は特に問題はなく、2 つの事例に共通点は見られなかった。しかし、『普通の家庭』とも言い換えられる内容であったため、「公の場でのいじめ」を行ういじめ加害者の家庭環境は、親の養育態度に過干渉あるいは無関心などの偏りがみられない家庭であると考えられる。つまり、「公の場でのいじめ」を行ういじめ加害者は、親の養育態度の偏りがみられない家庭で育ち、問題行動を起こしがちで、生徒たちからも距離を取られてしまうような生徒という特徴が いえる。

「陰でのいじめ」では、生徒 C, D の 2 つの事例が得られた。しかし、先生からの評価については、生徒 C は中学入学前から問題行動が見られた子、生徒 D はユーモアがあり弱い子を助けるような良い子と対象的な特徴がみられた。同様に、生徒からの評価も、生徒 C は特別に成績が良かったわけでも運動神経が良いわけでもない子という一方で、生徒 D は友達が多くて楽しい子と、2 つの事例には相違点がみられた。また、家庭環境についても、生徒 C は父子家庭で子どもに気が回らないという一方で、生徒 D は両親から過剰な愛情を込められていたことがわかり、対象的な家庭環境が挙げられた。従って、「陰でのいじめ」を行ういじめ加害者は、子どもに対して親からの関心が高いか低いかの二極性があり、周囲からの評価が低くて問題行動を起こすような子も、友人が多くて人気者で弱い子を助けるような良い子も存在するといえる。

「関係を利用したいじめ」では、生徒 E, F, G, H の 4 つの事例が挙げられた。先生からの評価については、生徒 E は目立たない子、生徒 F は落ち着きのない子、生徒 G は面倒な子、生徒 H は勉強やスポーツができる子と共通点は見られなかった。しかし、生徒からの評価では、生徒 E は嫌がられていたり、生徒 F は好印象を持たれていなかったり、生徒 G は良く思われておらず、生徒 H においては逆らえない感じの子であるという結果となった。つまり、大人からの評価は一貫していないが、生徒からは悪い印象を持たれていたと考え

られる。また、家庭環境については、生徒 E と生徒 G に関しては不明だが、生徒 F の家庭は複雑な問題を抱えている一方、生徒 H は特別な問題はなかったということから、共通点はみられなかった。従って、「関係を利用したいじめ」を行ういじめ加害者の特徴は、大人の目に映るいじめ加害者の認識は様々だが、生徒からは近寄り難く、距離を置きたがるような認識であったことが分かった。

「物理的ないじめ」については、今回は事例を得ることはできなかった。

以上のように、本研究では、「いじめの 4 類型」をもとにしたいじめ加害者の特徴を明らかにした。しかし、「公の場でのいじめ」を行ういじめ加害者は、直接的な攻撃行動を取る問題児タイプであったが、「陰でのいじめ」、「関係を利用したいじめ」を行ういじめ加害者は、優等生タイプとは限らなかった。

#### 4. 今後の課題

いじめの 4 類型のうち、「物理的ないじめ」を行ういじめ加害者の事例は想起されなかった。その理由は、筆者の説明不足や時間配分による影響がなかったか、今後の改善点とする。また、「陰でのいじめ」、「関係を利用したいじめ」について優等生タイプとは限らないという結果が得られた。この点について再度検討する必要があると考える。

今後は、倫理的配慮を重視して十分な準備を行い、いじめ加害経験者からお話を伺い、それぞれの特徴と心理過程について検証したいと考える。

#### 謝辞

論文を執筆するにあたり、多くの方のご指導とご協力を賜りました。大妻女子大学大学院人間文化研究科臨床心理学専攻の大学院生に関わる諸先生方には大変お世話になりました。特に、学部生時代から 4 年間にわたり、なかなかご期待に添う結果を出せなかった私に、熱心にご指導いただいた田中優先生には、心より御礼申し上げます。

本研究のインタビュー調査にご協力いただいた先生、話しにくい内容にもかかわらず、貴重なお話を沢山聞かせていただき、誠にありがとうございます。また事例を挙げるために、長い時間をかけて想起していただき、心から感謝しております。

## 付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所の大学院生研究助成（A）（DA2604）の助成を受けたものである。

## 参考文献

### <書籍の中の論文，章など>

- [1] B.クラーエ. 秦一士ほか. 攻撃の心理学. 北大路書房, 2004
- [2] 廣井亮一. 廣井亮一. 加害者臨床. 日本評論社, 2012
- [3] 中村陽吉. 「自己過程」の社会心理学. 東京大学出版会, 1990

### <雑誌>

- [1] 昼田源四郎ほか. 「いじめ」研究の現状と課題. 福島大学教育学部論集教育心理部門. 1997, 62, p.71-88.

- [2] 石田靖彦ほか. 中学生のいじめ体験に関する研究～「加害者」「被害者」「観衆」「傍観者」「解決者」の心理的特徴について. 日本教育心理学会総会発表論文集. 2002, 44, p.168.
- [3] 小林英二ほか. いじめ研究の動向～定義といじめ対策の視点をめぐって～. 筑波大学教育実践研究. 2013, 32, p.163-174.
- [4] 三島浩路. 対人関係能力の低下といじめ. 名古屋大学教育学部紀要心理学. 1997, 44, p.3-9.
- [5] 餅川正雄. 学校のいじめ問題に関する研究(Ⅲ). 広島経済大学研究論集. 2011, 34 (1), p.51-70.
- [6] 岡安孝弘ほか. 中学生のいじめ被害・加害経験と心理的ストレス. 教育心理学研究. 1998, 48(4), p.410-421.
- [7] 酒井亮爾. 人はなぜいじめるのか. 愛知学院大学心身科学部紀要. 2010, (6), p.93-101.
- [8] 迫田真由子. 第4章加害者に着目したいじめ集団類型. 学校臨床研究. 2000, 1 (1), p.31-37.

## Abstract

I classified the characteristic of the bullying assailant by "4 types of the bullying" (the bullying at a public place, the physical bullying, the bullying by relationship, the bullying in the shadow). The bullying assailants who performed "the bullying at the public place" were brought up in a family without the problem, but were problem children at school. The bullying assailants who performed "the bullying in the shadow" were brought up in an overprotective family or in an indifferent family, were both of problem children and honor students. According to teachers, the bullying assailants who performed "the bullying by relations" were children of various characteristics. But, according to students, they were avoided. In this study, I could not interview a bullying assailant and was not able to check a mental factor.

(受付日：2015年7月5日，受理日：2015年7月15日)

大嶋 千尋（おおしま ちひろ）

現職：放課後等デイサービス ドリームボックス諏訪 生活相談員

大妻女子大学大学院人間文化研究科修士課程修了。  
専門は臨床心理学。